

みんなで作る博物館 4

～川の生きものの生態を学ぼう～

平成 27 年度『環境学習みえ』では、『みんなで作る博物館』をシリーズで特集します。三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、総合力を発揮して探究し、保全・継承するMieMu(みえむ):三重県総合博物館。学びと交流を通じての人づくりや、愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献するMieMuのさまざまな活動を取り上げます。

【お話を伺った人】



MieMu みえむ | 三重県総合博物館
MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

三重県総合博物館 ミュージアム・パートナー
生きものグループ 代表

樋口 りり子 さん

普段はOLをしながら、休日の生きものグループの活動では、川に潜って淡水魚の調査・研究などを行っています。

三重県総合博物館 ミュージアム・パートナーの副会長も務めています。

生きものグループ

「見たい生きものがある！」
「じゃあ、あそこへ行ってみよう！」
というように、やりたいことを大人も子どもも
一緒になって、グループで話し合い活動しています！



『私たちの使命』

「私たちは三重の身近な自然を観察し研究することで自然と人との関わりを感じ、これからの人間生活の中で自然と調和のとれた豊かな世界を作る人々が集う社会の形成を目指します。」

「魚についてもっと学びたい！」

生きものグループは、MieMu(みえむ)・三重県総合博物館とともに、三重の自然と歴史・文化について探究し、広くその価値を発信する活動を行うミュージアム・パートナーの中で、自然や生きもの(主に淡水魚)に関心を持った人の集まりです。県内各地での水生生物調査を中心に、三重県の豊かな自然や生きものについて、楽しく学ぼうという目的で活動しています。

生きものグループの代表を務める樋口さんは、博物館での活動を始めて8年、生きものグループに加入して5年目になります。小学生の頃は『孤野町みどりの少年隊』で自然と触れ合う機会を多く過ごしました。なかでも魚が大好きで、よく魚捕りをして遊んだそうです。その後も地元朝明(あさけ)溪谷で淡水魚を育てる仕事をしてきた経験から、

溪流魚のことはよく知っていました。しかし、博物館で魚の調査に参加した際に、中・下流にいる魚のことがわからなくてがっかりしたことがあったそうです。博物館でのさまざまな活動に参加する中で、「魚についてもっと学びたい！」と強く思うようになり、生きものグループに入って2年で代表となりました。

今回『みんなで作る博物館』シリーズの平成27年度冬号では、生きものグループの専門性に特化した調査・研究と、博物館における標本などの資料収集に関わる活動についてお話を聞きました。また樋口さんが活動を通して、どのように博物館を利用しているかについてもご紹介します。